

第6回演習

演習 1

- ▶ 説明資料 p.8 のプログラムを実行せよ
- ▶ list を deque に変えるとコンパイルはできるが結果が正しくないことを確認せよ
- ▶ ex06-1.cpp

```
#include <list> // -> deque  
...  
std::list<Point> ... // -> std::deque<Point>
```

演習 2

- ▶ 説明資料 p.14 のプログラムを実行せよ
- ▶ ex06-2.cpp

演習 3

- ▶ 説明資料 p.14 のプログラムを以下の様に変更して要素数を確認せよ。
 - ▶ `price["banana"]` の出力を `price["nabana"]` とする
 - ▶ その後に `price` の要素数を `size()` メンバ関数で確認する
- ▶ `ex06-3.cpp`

演習 4

- ▶ 説明資料 p.18 のプログラムを実行せよ
- ▶ ex06-4.cpp

演習 5

- ▶ `std::set` を使い標準入力から読み込んだ文字列の重複を除去するプログラムを作れ。
- ▶ ヒント：
 - ▶ `std::string` の変数に `cin` から読み込んで、`set` の変数に `insert` する。
 - ▶ 挿入失敗は無視してよい
- ▶ `ex06-5.cpp`

```
$ echo a b c a a b c d | ./a.out
a b c d
$ echo abc bbc ccba abc abc d | ./a.out
abc bbc ccba d
```

演習 6

- ▶ 説明資料 p.18 の文字列と整数の対を `unordered_map` の変数に保存し、範囲 `for` 文で出力せよ
- ▶ 構造化バインディングを使うこと
- ▶ `ex06-6.cpp`
- ▶ 出力例（この順にならないこともある）

```
$ ./a.out  
banana : 300  
tomato : 120  
pineapple : 450  
orange : 150
```

演習 7

- ▶ 説明資料 p.30 のプログラムを実行せよ
- ▶ コマンドライン引数で `rndseq_set()` 関数の `n` を指定できるようにすること。
- ▶ `ex06-7.cpp`

```
$ ./a.out
2 1 8 6 4 5 9 10 7 3
$ ./a.out
6 8 1 9 5 3 2 7 10 4
$ ./a.out 100
6 17 90 7 77 10 3 95 63 53 70 9 81 91 68 58 99 45 23 37 54 19 18 4 97
83 32 24 51 61 100 74 73 14 48 52 22 76 49 59 86 62 50 15 21 8 34 36
....
$ ./a.out 100
28 14 43 21 56 11 10 29 44 48 73 85 22 12 67 64 42 59 55 26 16 4 15 18
53 97 52 91 63 3 74 49 13 41 1 6 33 45 27 99 69 39 65 68 88 57 87 2 82
....
```


演習 8

- ▶ 説明資料 p.32 のプログラムを実行せよ
- ▶ ある程度効果の分かる入力を考えよ
- ▶ ex06-8.cpp